

大学院医学研究科 博士課程 医学専攻

専攻主科目名

# 心臓血管外科学

◆問合わせ連絡先 担当: ちば・心臓血管外科 宮城直人

E-mail miyagi.cvs@med.teikyo-u.ac.jp

TEL 0436-62-1211 (内線・モバイル: 5072)

HP<sub>(研究室・診療科)</sub> <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~chiba/>

---

## ◆教育内容

心臓血管外科領域疾患の患者について、術前病態を的確に把握し、最も適切な手術を中心とした治療を行い、更に術後合併症の回避や退院後のケアにより患者満足度の高い治療を行うという、一連のプロセスを身につける。また、その診断・治療に必要な医療技術や治療効果評価について、習得・判断をするための学術的な知識や方法論を身につける。

## ◆到達目標

### 【1年次】

- ①病態を的確に判断しうる知識(胸部レントゲン、心電図、CT、心エコー、呼吸機能検査を読影し、診断できる知識と技術)を身に付け、検査報告書を作成できる。
- ②適切な術前処置を理解し、かつ術前患者のプレゼンテーションができる。

### 【2年次】

- ①術中治療(清潔手技の操作、術式、術中の諸問題に対する処置など)を理解し、手術記録を作成することができる。
- ②術後治療(輸液・薬剤、感染症に対する対策など)を行う際の各種モニター、検査結果の理解と病態に応じた治療ができる。
- ③学会発表に必要な準備・プレゼンテーションができる。

### 【3年次】

- ①手術を術者として責任ある立場で遂行する。
- ②臨床研究のデータを適切に解析し、原著論文を作成できることを目標とする。

## ◆スタッフ紹介

准教授 宮城 直人(みやぎ なおと)

出身大学 : 東京医科歯科大学 平成11年卒 医学博士

専門分野 : 成人心臓血管外科

専門医等 : 日本心臓血管外科専門医・修練指導医

心臓血管外科学国際会員

日本外科学会認定医・専門医・指導医

腹部ステントグラフト実施医・指導医

胸部ステントグラフト実施医・指導医

日本血管外科学会認定血管内治療医

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

## ◆得意とする診療

開心術、末梢血管疾患と幅広く行っているが、MICS CABG(左小開胸による冠動脈バイパス術)は日本でも施行施設が少なく、見学を受け入れることも多い。



イラスト:MICS CABG(Medtronic Inc.)

## ◆手術件数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
総数	94	131	149	122	117	108
冠動脈バイパス術	27	33	28	37	28	19
大動脈弁	9	22	16	23	12	15
僧帽弁	4	21	21	16	16	6
三尖弁	1	20	8	10	9	2
Maze	1	17	11	9	7	4
大動脈解離	0	2	2	3	19	2
胸部大動脈瘤	3	13	10	6	13	6
腹部大動脈瘤	8	16	24	22	21	27

## ◆業績

### 【過去5年の学会発表タイトル】

- ・多枝MICS CABG成功へのステップ
- ・Surgical Live Demonstration 2 MICS-CABG ロボット支援手術(OPCAB, MVP)
- ・大動脈弁形成術における術中大動脈弁評価デバイスの開発
- ・MICS CABGをいかにして標準術式とするか
- ・高齢者の腹部大動脈瘤と狭心症に対しEVARとMICS CABGを同時施行した一例
- ・MICS CABGにおけるPAS-Port Systemを用いた中枢側吻合
- ・Surgical repair of innominate artery aneurysm with left carotid artery stenosis.
- ・AAAを伴う偽腔開存型(右腎動脈偽腔灌流)IIIb解離に対し、右腎動脈血流を温存し得た一期的TEVAR・EVAR施行例
- ・これからの手術～MICS CABG～ (ランチョンセミナー演者)
- ・冠動脈病変を有する腹部大動脈瘤症例に対する、一期的冠動脈再建と腹部大動脈瘤手術の検討

## ◆業績

### 【過去3年の論文】

宮城直人、恵木康壮

下壁梗塞後の心室中隔穿孔に対するinfact exclusion変法および僧帽弁置換術

胸部外科 72巻8号:591-594 2019

宮城直人

大動脈弁逆流の術中評価を目的とした、大動脈弁評価デバイスの有用性の検討

帝京医学雑誌 42(2):125-132 2019

宮城直人

脳梗塞治療中に発症した深部静脈血栓症

臨床雑誌『内科』123(4):969-971 2019